

UCCN メンバーシップモニタリング報告書 評価様式

メンバーシップ・モニタリング 報告 作成都市	鶴岡市
メンバーシップ・モニタリング 報告書 評価都市	ベルゲン／ノルウェー、ガジアンテプ／トルコ (パルマ／イタリアが要約)
ネットワークの活動への参加レ ベル	低・ 中 ・高
UCCN の目標達成のために実施 された地域レベルでの取組の質 と量	1 poor, 2 fair, 3 good, 4 very good , 5 excellent
UCCN の目標を達成するための 都市間の協力を通じて実施され た取組の質と量	1 poor, 2 fair, 3 good, 4 very good , 5 excellent
今後 4 年間の中長期のためのア クションプランの質	1 poor, 2 fair, 3 good, 4 very good , 5 excellent
特に興味深い優良事例	<p>a. レストランの連携による鶴岡ならではの食の提供 【具体事例】鶴岡のれん（2013 年～2016 年に実施）：市内の飲食店や旅館が連携し、鶴岡ならではの食を幅広く提供。</p> <p>b. 2017 年から毎年開催される食の映画祭 【具体事例】つるおか食文化映画祭（2017 年～）：市民が食に興味を持ち、学ぶ機会の創出を目的として実施。</p> <p>c. 郷土食や行事食の記録、レシピ集味シリーズ 【具体事例】「つるおかおうち御膳」等の郷土食の記録、「はたけの味、たんぼの味」等のレシピ集：地域に受け継がれる多様な食文化を次世代に伝えるために編纂・発行</p> <p>d. UCCN やその他の都市への料理人派遣の制度化 【具体事例】料理人研修派遣制度(2018 年制度化)：ユネスコ創造都市からの料理人派遣要請に対応。全州(韓国)に 1 名、バレンシア(スペイン)に 2 名派遣。</p> <p>e. 2018 年：食関連産業の自己研鑽プログラムや補助 【具体事例】料理人等高度化支援事業補助制度(2018 年度制度化)：料理人の知識・技術向上を目的として、自己研鑽（資格取得や研修等）に係る費用の一部を補助する制度を創設。2018 年度は国外研修 4 名、国内研修 7 名の計 11 名が補助利用。</p> <p>f. 食育と地産地消：幼稚園、保育園、小学校、中学校で子供たちに地元の食を教え、体験させること、及び調理体験や子供の健康な成長のための食育を通して、鶴岡の食文化や、郷土食、行事食を次世代に継承することは大変効果的である。</p>

<p>強い点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化遺産を保存するための創造的で幅広い範囲の取組。政策と戦略の一体化は有益である。 ・地域の食文化の歴史等を踏まえたビジョンが明確であり、経済にプラスの影響をもたらすこともできる。 ・他の食文化都市との具体的な交流と幅広い範囲での相互交流により、優良事例の共有・交換に貢献している。
<p>弱い点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化分野における革新的で創造的な取組の不足。保存・継承や歴史に集中している。 ・報告書の中では、イベントやプログラムの運営主体が十分に見えない。 ・提案された活動計画では、ユネスコが掲げる目標との繋がりが明確ではない。
<p>全体の評価</p>	<p>とても満足 / 満足 / 不満足</p>
<p>より効果的にするためのコメントや助言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアやインターネットニュース媒体の利用により、さらに効果的に食文化都市のプロモーションができるはずだ。観光誘致のために毎年食文化フェスティバルを開催するとともに、食文化都市の知名度を上げるために、食文化体験学習の国際的な活動の数をもっと増やしてはどうか。 ・認定以降、市が乗り越えた困難が含まれていない。 ・たくさんの興味深い取組を鶴岡が行っていることがわかる。例えばサブネットワーク会議などを利用し、他の食文化都市にもっと伝えたほうがよい。食文化創造都市として、お互いの優良事例を簡単に学び合える仕組みが必要。